



2023 年度（令和 5 年度・第 9 期）

事業報告書

1. 2023 年度を振り返って
2. 2023 年度 事業報告書
 - ・全体概要および事業内容補足事項
 - ・運営に関する事項
3. 2023 年度 活動計算書
4. 2023 年度 貸借対照表
5. 2023 年度 財務諸表の注記
6. 2023 年度 財産目録

1. 2023 年度を振り返って

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、世間の情勢も様変わりしました。ポケットサポートもその追い風と共に、対面での相談や、交流支援・学習支援も再開。岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の相互交流支援を受託したことで連携する医療機関が増え、県内各地出張型交流イベントも実施することができました。試験運用を開始した LINE 相談では、気軽な相談ツールということもあり、新たに出会う子どもたちやご家族とも関係性を築くことができました。主催する講演会やシンポジウムも、現地とオンライン併用のハイブリッド開催で、全国の皆さんたちとのつながりの深まりを確認できました。その足取りは、事業方針として掲げた【場】と【人】を着実につないでいった 1 年となったのではないのでしょうか。

私たちが掲げる 2025 年ビジョンの 1 つ目のミッション「環境をつくる」では、約 3 年ぶりに支援拠点での対面の学習支援を再開し、ポケットスペースで退院後の自宅療養中の子どもや家族と過ごすことができました。3 つの病院に増えた小児病棟への支援についても、医療スタッフと日々の連携を通じて、子どもたちや保護者の様子を互いに伝え合い、より良いつながりを深めることができました。未だ入院中の子どもたちの病棟での対面支援は休止が続いていますが、病院の中で会える日も近づいてきているのではないかと感じています。

行政との連携もその強みを感じています。保健所の相談から始まったケースでは、保護者の方との連絡を通じて、長期入院を経た退院直後の生徒の学習支援を行うことになりました。「半年以上入院していたけど、院内学級に 1 か月程度しか通えていない」「春に復学するまでに色んな人たちとの関わりも慣れていきたい」ということから、

学習・復学支援が始まりました。学習内容については、通っていた院内学級の先生と連絡をとり「この科目は、ここまで進んでいる。とても学習に対して熱心な子で、絵を描くことや細かい作業が得意」といった情報の共有もなされました。ポケットスペースへ週に 2~3 回通いながらの支援では、新たに加わった元・院内学級担当の教員であるスタッフや支援員、大学生のボランティアも参加。次の学年に向けて不安だった学習を進め、復学にしっかり伴走することができました。



2 つ目のミッション「生きる力を育む」では、今までの「ポケサポ相談ダイヤル」に加えて LINE 相談も運用を開始。県内だけでなく全国からの相談にも対応しています。LINE 相談は気軽に繋がるツールとして、保護者や 10 代後半など自分でスマートフォンを持っている世代から日々連絡を頂いています。

コロナ禍が生んだ現象として「同じく闘病する者が、直接交流することが難しくなった」といったことがあると思います。それ以前は、同じ病院に入院している人同士が、病室や病棟の廊下、談話室などで自らの病気の事や私生活の話をする場面によく遭遇していました。それが、感染症対策のため入院中の患者同士はもとより、子どもの保護者同士の交流や会話もなくなってしまっています。これを私は「たくさん入院してるのに、みんな独りぼっちで闘病している」＝「孤独な入院」と呼んでいます。

岡山県の難病相談に訪れた 10 代後半の子から「2 年前に病気が発症したけれど、同じような病気の人と出会ったことがない。闘病している同世代と話がしたい。交流がしたい。」といった主訴がありました。そこからポケットサポートにつながり、2 月の交流イベントに初めて参加をしてくれました。それまで、電話やメールなどでも話は伺っていましたが、彼はゲームなどのアクティビティに参加することなく、座談会のテーブルで 2 時間ずっと、自分の病気のこと、発症してからの不安な思いを話し、闘病している同世代からの話を一生懸命に聞き入っていました。

「こんなことなら、もっと早く知りたかった。」
「次は、母親も連れてきてても良いですか？聞きたいことがたくさんあるみたいです。」この後も、診察のときの医療者との話、不安なことがあるとき、継続して相談してこられてポケットサポートに関わってくれています。

3 つ目のミッション「人や気持ちをつなぐ」では、「家族・支援者向けサポートブック」を制作。県内の全ての学校関係はもとより全国の小児慢性特定疾病関係機関や、小児がん拠点病院等へも配布することができました。

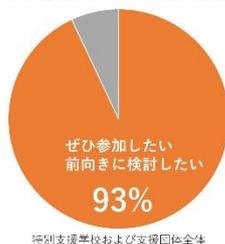
「病気療養をしている子どもにとっても、学びは大切であり喜びです。その機会をなるべく失わないようにしてあげたいというのが、私たち医療者の願いでもあります。」2023 年度まで岡山医療センターの病院長を務められていた久保先生が寄稿して下さった文の一部です。私たちの活動は医療者との連携が必要不可欠です。この文を頂いた時、病気の治療以外の部分を見てくださる医療者の方が事業に協力して頂いているということに、心強さを感じました。

また WEB を活用した情報発信として、私たちの思いや活動内容などをまとめたプロモーション動画を制作、SNS や YouTube への広告掲載にチャ

レンジし、その結果多くの支援者の方とつながることができました。まさに「気持ちをつなぐ」を実感する出来事となりました。その他、ベネッセこども基金さんと実施した「病気療養児支援者全国ネットワーク構築に関するアンケート」もメディア掲載されたことで反響を呼び、本事業のニーズの高さや、支援者同士の繋がり的重要性を広く、多くの方に認識していただくことができました。

「病弱児支援に横断的体制を望む」9割

全国ネットワークへの参加意向



特別支援学校・支援団体の双方で
全国の病弱児支援団体や
関係機関同士の横のつながりを
広げることへの**高い関心がある**

調査回答数：47件
・特別支援学校：33件
・病弱児支援団体：14件

世の中全体でコロナ禍が終息する中、未だ小児医療の現場はその延長を引きずっているように感じています。しかし、ICT 等のテクノロジーや病気療養する子どもたちに関する制度も整ってきているのは事実です。テクノロジーと制度が整えば、あとはそれを使う「人」がいれば子どもたちは救われていくと実感しています。

私たちは 2023 年度、病気を抱える子どもたちが学び、家族が安心して交流ができる場があることを喜んでくださる姿を沢山目の当たりにすることができました。そして、その場を支えてくれる支援者・活動の理解者の人たちと連携・協働ができることが、一番の強さなのだと改めて実感する 1 年間でした。これからも岡山という地域で病気療養する子どもたちやご家族のため、さらに歩みを進め 2024 年度も病気を抱える子どもたちが安心して過ごせる社会づくりを、仲間たちと共に取り組んでいきたいと思えます。

代表理事 三好 祐也

2. 2023年度（令和5年度・第9期）事業報告

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
個別学習支援 双方向WEB学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対してのICT機器を活用した学習サポート	自主	545,405	小中高校生 延べ約20名
		随時・オンライン等		5名
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、オンライン支援に必要なPC等の環境整備	助成	233,744	大学生 延べ約100名
		随時・オンライン等		5名
科学と数学の 対話型体験学習	探求学習プログラムGEMSを活用した学びや発見・考える楽しさを再発見する (MDRT Foundation-Japan 助成)	助成	204,648	小中高校生 延べ約30名
		現地・オンライン		8名
		小計	983,797	

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動の支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
ポケットスペース (岡山市)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施 (岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業)	受託	2,491,535	小児慢性特定 疾病児童等 延べ約70名
		毎週2回・オンライン		延べ約200名
ポケットスペース (岡山県)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施 (岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業)	受託	3,715,377	小児慢性特定 疾病児童等 延べ約70名
		毎週2回・オンライン		延べ約200名
交流イベント (きょうだい含む)	季節に応じた体験交流イベント開催で当事者同士のピアサポート、自分らしい家族形成支援につなげる	受託 自主	839,230	当事者家族等 のべ約80名
		随時・郵送等		延べ10名
		小計	7,046,142	

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
講師派遣事業	大学等に講師を派遣して 病弱児支援について広報、周知活動	謝金	761,780	講演等参加者 約 700 名
		随時・オンライン等		3 名
病気療養する高校生世代の 支援拡充事業	岡山県内における AYA 世代支援 ネットワークづくりフォーラム開催 (橋本財団ソーシャルワーク支援助成)	助成	825,652	全国の関係者 約 400 名
		随時・8 月講演会開催		10 名
全国病気療養児支援 アドバイザーニーズ調査	県外からの相談にも対応できるように 全国各地の支援者とのつながりを構築 (ベネッセこども基金助成)	助成	701,136	教育関係者等 約 200 名
		随時・2 月調査報告		5 名
当事者家族との つながり拡充事業	県内 3 地域に出張しての相談会開催と 病気療養児サポートブックの制作 (田辺三菱製薬手のひらパートナープログラム助成)	助成	655,022	教育等関係者 約 100 名
		年 3 回・現地開催		10 名
WEB を活用した 情報発信強化事業	PV 動画やデジタル広告を活用した 資金調達強化と WEB アウトリーチ拡充 (大和証券こども支援団体サステイナブル基金助成)	助成	3,550,151	寄付・支援者等 約 100 名
		随時・オンライン等		5 名
病気療養児へ届けたい！ 未来への希望プロジェクト	病気療養児に向けた広報チラシ制作および 支援拡充フォーラム開催 (一柳ウェルビーイングライフ基金)	助成	1,131,348	講演会等参加者 約 300 名
		随時・2 月フォーラム		10 名
		小計	7,625,089	

事業費計：15,655,028 円

個別学習支援、双方向WEB学習支援



▲支援拠点での個別学習支援風景

- ・6月以降、支援拠点で少人数での学習支援を再開。入院中の子どもや、自宅療養を続けて復学を待っている子どもに対し、療養中の空白を補うための学習支援を行った。
- ・各地域の保健所や県教育委員会、医療スタッフからの紹介、相談ダイヤルには県内外から問い合わせもあり、多方面の依頼に対応した。
- ・3年ぶりに支援拠点で実施した学習支援では、元院内学級の教員や、大学生ボランティアが対象者の子どもや保護者との関係作りをすることで、多様でスムーズな支援が行える環境づくりができた。

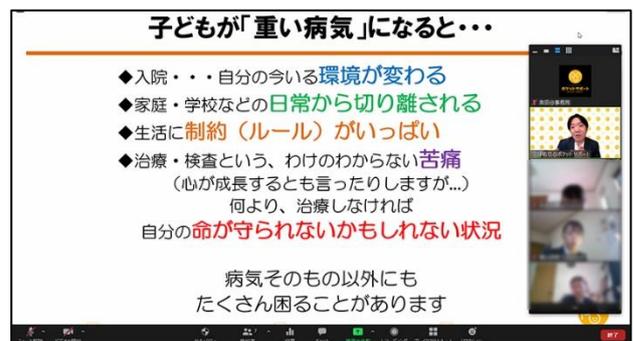
ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

■新規ボランティア説明会および初回研修

開催日：2023年7月2日（参加15名）

- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始
- ・年間で9名の新規ボランティア登録者
- ・オンライン支援については、学習支援ツールや知育ゲームの使い方、画面を通して支援しやすい方法などを、テストプレイや実践を通して研鑽を積んだ。
- ・講演会やフォーラムの企画運営を通じて、全国の支援者と繋がることができ、大学生らの学びの場ともなっている。

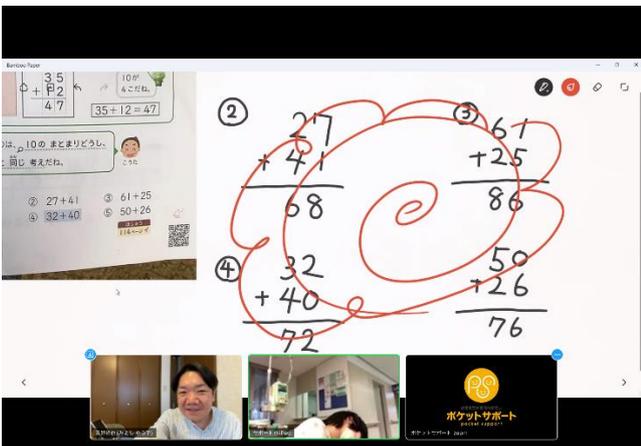
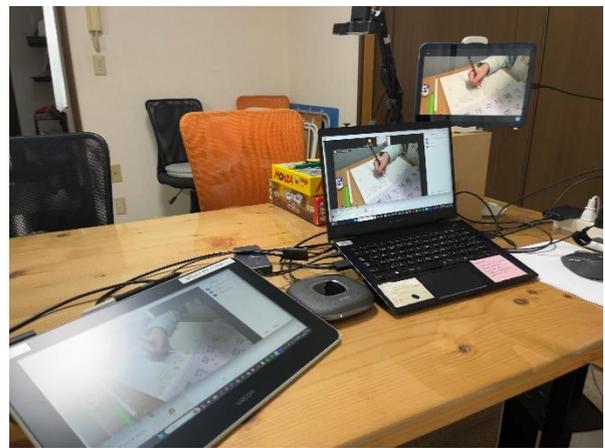
- ・10月8日にNPO法人 Your School が主宰したフォーラム「病院にある学びの場～入院中の子どもたちに今の自分ができること～」に、2名が参加。全国で病気療養する子ども支援で活動する大学生ボランティアらとの交流を深めた。



▲オンライン開催した新規ボランティア説明会

慢性疾病を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

- 2023 年度から岡山県の委託事業が開始し、支援拠点のほか県内3か所の小児病棟でオンライン支援を実施することができた。
- 年間延べ 214 人の子どもや保護者に対し、交流や相談、学習支援を実施した。支援には年間を通して延べ 348 人の支援従事者が関わった。
- 医療機関との連携では貸し出している iPad を通じて、日々の医療スタッフとのやり取りや、子どもたちや保護者とのつながりを作ることができた。
- 支援内容は知育ゲームによる交流、長期療養中の学習空白を埋める学習支援の他、企業プロボノにも参加してもらい「英会話がしてみたい」といった特別なニーズにも対応することができた。
- ポケサポ相談ダイヤルへは年間で 50 件の相談が寄せられた。
- 12 月より試験運用を開始した LINE 相談では当事者や保護者らと気軽につながることができ、日々の相談が活発になっており、県内のみだけでなく全国からの相談に対応することができた。
- 医療関係者からの相談でつながった退院直後の中学生への支援では、学習内容を院内学級の教員と情報共有するなど多職種連携を行い、復学までの長期間にわたり支援することができた。



地域出張交流イベント、きょうだい・家族ケア

6月以降は対面での交流イベントを再開し、「地域出張交流イベント」として、11回実施し、全体で79名が参加した。感染症対策や遠方で参加が難しい子どもや家族に対し、Zoomのテレビ会議機能を使ったオンライン交流イベントも行った。相談ダイヤルや保健所からの相談でつながった新規の参加者や、コロナ禍で会えなかった仲間たちとの再会など、様々な交流の場が生まれた。

■ポケットスペース in 総社

開催日：2023年6月25日／参加者：7名

■GEMS オンライン「強い動物をつくろう」

開催日：2023年7月8日／参加者：12名

■GEMS 現地開催「液体の特性調べ」

開催日：2023年7月9日／参加者：6名

■GEMS 現地開催「海洋環境を調査」

開催日：2023年7月9日／参加者：3名

■ポケットスペース in 備前

開催日：2023年8月26日／参加者：12名

■ポケットスペース in 津山

開催日：2023年10月7日／参加者：1名

■当事者座談会&交流会

開催日 2023年12月3日／参加者 10名

■ポケットスペース in 岡山

開催日 2024年2月10日／参加者 13名

■ポケットスペース in 吉永

開催日：2024年2月17日／参加者 10名

■ポケットスペース in 総社

開催日 2024年3月16日／参加者 1名

■ポケットスペース in 井原

開催日 2024年3月30日／参加者 4名



病気療養する高校生世代への支援拡充

- ・2023年8月6日に「岡山県内におけるAYA世代支援ネットワークづくりフォーラム」を岡山大学鹿田キャンパスJホールで開催した。
- ・講師として、副島賢和 准教授（昭和大学大学院保健医療学研究科）、石田悠志先生（岡山大学病院小児科）に登壇いただいた。
- ・会場参加とYouTube配信によるハイブリットで、地域別でも30を超える都道府県から申し込みがあり、参加総数432名（運営スタッフを含む）だった。
- ・当日の参加者からとYouTubeのライブチャットに寄せられる質疑応答も活発に行われていた。9割を超える方から「良かった」というアンケート回答があり、病気療養する子どもの支援者を中心に全国的な関心を寄せられた内容となった。

- ・当日参加できなかった関心層へ向けて、当日の様子を録画編集したアーカイブ版を公開し、動画視聴できるQRコードを掲載したパンフレットを学校や病院等に発送した。



- ・本事業は公益財団法人橋本財団による助成により実施した。

WEBを活用した情報発信強化事業

- ・団体の活動理念、代表の思い、活動内容、利用者の声、多職種連携実績などをまとめたプロモーション動画を制作した。
- ・YouTubeへのアップロード、紙媒体（パンフレットや事業案内）へ動画QRコードを掲載し広く見て頂けるようにした。
- ・各SNSやYouTubeの広告経由からランディングページや動画を視聴いただいたことで、WEBアウトリーチ等による新規相談件数や、マンスリーサポーター登録者増につながった。
- ・本事業は大和証券グループ未来応援ボンドこども支援団体サステナブル基金の助成により実施した。

病気によって
将来を諦めてしまう
子どもたちを救いたい

日本で病気があっても挑戦し続け、活躍する子どもたちをあなたも応援してください。

今、この瞬間も日本で長期療養を続ける約14万人の子どもに支援を届けるため
あなたのご寄付が必要です！

月1,000円で入院中の子ども3人に支援が届けられ
ご寄付は寄付金控除（税制優遇）の対象です。
詳しくはQRコードからご確認ください。

1日33円～
今すぐ寄付で
応援する

講師派遣事業

2023年度は年間8回の講師派遣による講演を行い、全体で約450名の聴講者を得た。テーマは病気の子どもの教育環境について、病気の子どものキャリア支援、病気の子どもを持つ親の復職に関することや、ポケットサポートが受託している小児慢性特定疾病児童等自立支援事業に関する事など多岐にわたった。

①4月21日：参加者30名

SDGs ネットワークおかやま G7 前夜祭イベント
「難病児の親が【働く】ということ」

②5月15日：参加者60名（大学生）

岡山大学教育学部特別支援教育講座
「病弱者心理・生理・病理学概論 病気の子どもの支援～ポケットサポートの活動を通じて～」

③6月23日：受講者9名

国立特別支援教育総合研究所
第三期特別支援教育専門研修
「地域における病気のある子どもの支援の実際」

④7月28日：参加者約20名（病弱部教員）

岡山県立早島支援学校
「病気を経験した児童生徒が生きるために身につけたい力」

⑤9月10日：参加者約150名

日本幼少児健康教育学会「病気の子どもたちが安心して学べる環境づくり」

⑥11月3日：参加者約70名

令和5年度造血幹細胞移植推進拠点病院
中国ブロックセミナー「病気療養する高校生が安心して学び・交流できる環境づくり」

⑦1月22日：参加者45名

千葉県保健所
小児慢性特定疾病自立支援事業担当者研修
「自立支援員からみた支援現場の実態と自立支援員としての心構え」

⑧1月24日：参加者約60名

岡山キワニスクラブ卓話「病気の子どもたちが安心して学べる環境づくり」

ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。



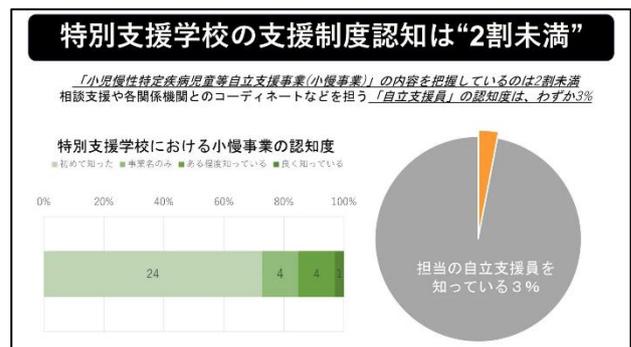
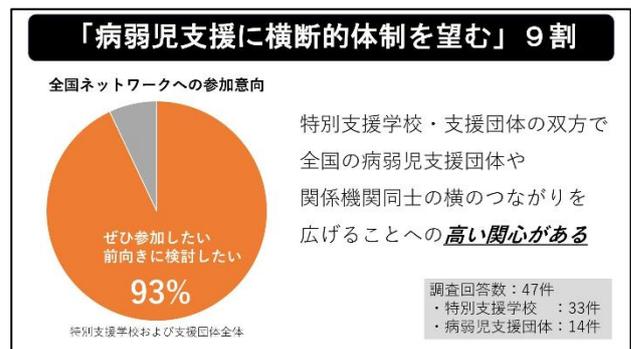
当事者家族とのつながり拡充事業

- ・病気療養児支援につなげるサポートブックを制作し、県内の学校や各都道府県の教育委員会、小児慢性特定疾病に関する行政など、関係各所へ郵送した。また、デジタル版電子ブックとしてパソコンやスマートフォンから閲覧できるようにダウンロード資料としてWEB公開した。
- ・サポートブックの原稿は、久保俊英院長(国立病院機構岡山医療センター)、大阪教育大学 平賀健太郎准教授(大阪教育大学)、福島慎吾氏(認定NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク・専務理事)、岡山県保健医療部医薬安全課、岡山市保健所健康づくり課、岡山県教育委員会特別支援教育課、岡山県立早島支援学校病弱部等が寄稿した。
- ・本事業は田辺三菱製薬手のひらパートナープログラムの助成により実施した。



全国病気療養児支援アドバイザーニーズ調査

- ・公益財団法人ベネッセこども基金と協働で『病気療養児支援者全国ネットワーク構築に関するアンケート』を実施した。
- ・全国の病弱特別支援学校と病弱児支援団体が回答し、支援ネットワークの構築に関する前向きなニーズの高さが調査から明らかとなった。
- ・調査結果報告の内容は2024年2月1日の教育新聞にも掲載され、特に「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」に関する病弱特別支援学校の認知度の低さがクローズアップされた。
- ・本事業は公益財団法人ベネッセこども基金との協働プロジェクトにより実施した。



運営に関する事項

(1) 総会

通常総会	開催日	2023年6月17日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	社員総数26名のうち21名出席(表決委任状13名、オンライン出席8名)
	決議事項	・2022年度(令和4年度・第8期)事業報告及び決算報告について

(2) 理事会

第1回	開催日	2023年4月15日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・令和5年度通常総会について ・職員給与に関する事項 ・認定NPO更新に伴う事項について ・令和4年度事業報告 ・職員の雇用継続について
第2回	開催日	2023年5月13日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・総会に付随する事項(決算、事業報告等)について ・中国ろうきん定期預金の移動について
第3回	開催日	2023年6月17日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・役員改選について
第4回	開催日	2023年3月2日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席2名、委任状1名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・総会に関する事項(日程、開催方法、議題等) ・2024年度役員報酬について ・事務局移転に関する事項
第5回	開催日	2023年3月23日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席2名、委任状1名、欠席0名) 監事1名、事務局2名
	決議事項	・次年度予算案 ・職員給与に関する事項 ・事業計画について ・事務局移転に関する事項について ・総会の日程に関する事項

(3) 補助金・助成金

補助・助成機関名（順不同）	内 容	金 額
公益財団法人橋本財団	岡山県内で病気療養する高校生世代の支援拡充事業	700,000
田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム	当事者家族が病気療養児に携わる多職種とのつながりを広げる事業	700,000
大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金	デジタル広告を活用したファンドレイジング強化と WEB アウトリーチ拡充	3,500,000
一柳ウェルビーイングライフ基金	病気療養児へ届ける未来への希望プロジェクト（WEB アウトリーチ・フォーラム開催）	1,200,000
MDRT Foundation-Japan	探究学習プログラム GEMS を活用した学びや発見・考える楽しさ体験イベント開催	200,000
岡山市市民活動支援金	病気療養する若者同士がつながる交流会	100,000

(4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務委託	2,000,000
岡山県	岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業委託	3,106,400
公益財団法人 ベネッセこども基金	病気療養児支援者全国ネットワーク構築協働プロジェクト	643,500

(5) 外部委員会への参加など

委員会等名（順不同）	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県特別支援教育エキスパート派遣事業 専門家チーム員	三好 祐也
岡山県立早島支援学校 学校運営協議会委員	三好 祐也
岡山市市民活動アドバイザー 支援者拡大のためのマーケティング活用	奥田 修平
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也